

心理学専攻

第17回コロキアムのお知らせ

下記のとおり、第17回コロキアムを開催いたします。どなたでもご参加いただけますが、博士課程の学生は必ず参加してください。博士課程の学生以外の方もぜひ積極的にご参加ください。

記

日時：1月12日（木） 18時10分より

場所：三田キャンパス南校舎4階 443番教室

発表者：宮田 裕光（日本学術振興会特別研究員PD、慶應義塾大学心理学研究室）

題目：速読熟達者における文章理解、眼球運動、脳活動

—メンタル・トレーニングが高次認知におよぼす効果

概要：

ブローカー以来の脳機能局在論に反論する形で、1990年代以降の神経科学では、点字読みや楽器熟達など種々の訓練によって、脳機能および構造が可塑的に変容することが指摘されてきた。またフランスコ・ヴァレラは、脳-身体-環境のダイナミックな相互作用として意識を捉えようとする、エナクティブ・アプローチを提唱した。これらを土台に、瞑想などのメンタル・トレーニングがもたらす自己変容過程とその神経基盤に注目が集まり、「contemplative neuroscience (瞑想的神経科学)」と呼ばれる領域が形成されつつある (e.g., Lutz et al., 2004)。

東洋における技能熟達には、禅仏教的思想を基盤に持つものが多い。それらが実現する可塑性および高次認知の検討は、ヒトの能力が持つ可能性を探る上で重要な意義を持つことが考えられる。発表者は、「速読」がその素材のひとつとなる可能性を指摘する。日本の朴-佐々木速読法では、丹田呼吸や漸進的弛緩法などの瞑想的訓練を基礎に、体系化された視覚訓練を行う。この方法の熟達者は、全ての文字を飛ばさずに1分間に数万字を越す速度で日本語文章を読めることが指摘されている (Fujimaki et al., 2004, 2009)。

本研究では、速読訓練者を含む日本人成人における文章理解、眼球運動および脳活動を、日本語読書に関する基礎的データの取得を含めて検討した。文章理解テスト、および近赤外線分光法 (near-infrared spectroscopy) とアイカメラの同時計測実験について、最新の分析結果を発表予定である。

以上